



# かけはし

今年も児童の「命」を最優先に  
～ あいさつや礼儀のもとの意味を考える ～



新しい年を迎えました。保護者、地域、関係の皆様、去年は様々な場面でのご支援とご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。今年も、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

年末年始はいかがお過ごしでしたか。この時期、あいさつをする機会や日本古来からある様々な儀式が多くなります。私は子供の頃、この非日常的なことが苦手で、あまり好きではありませんでした。最近では、堅苦しさが嫌われる風潮があり、無駄なことだと考えている人もいと聞きます。しかし、近頃こうしたことがどんどん簡素化され、本当にそれでよいのかと心配になります。そして、こうした節目の時に、私たち大人も、あいさつや礼儀、儀式等、その「形」が生まれるもとになった「人の心」を思い返すことが重要だと考えるようになりました。なぜ、あいさつが生まれたのか、なぜ、礼儀やマナーが生まれたのか、なぜ、年末年始の儀式が生まれたのか。

「子供は親の言うようにはならないが、するようにはなる。」という言葉があります。子供は親や身近な大人のあいさつの仕方や人に対する接し方(礼儀)を見て学んでいます。「学ぶ」とは、本来「まねぶ」つまり、「まねて習う」という意味の古語からでた言葉です。大人である私たちも新年にあたり、これらのことがなぜ生まれたのか、形になるもとの「人の心」に思いを巡らせ、姿で示し、次の世代につないでいきたいものです。

本日、3学期の始業式を行いました。式辞の中では、① 429人全員が新しい年を迎えられたことは何をもってしても嬉しいこと。② 人間は弱い存在である。だからこそ「目標」をもって毎日を過ごすこと。③ 「あいさつ」「思いやり」「感謝」でいっぱいの大久保小学校をつくっていくこと。そして、何よりも④ 自分の「命」や友達、家族、周囲の人々の「命」を大切にすることを伝えました。

3学期は、6年生にとっては登校日数が49日、1年生から5年生は51日という短い時間となります。3月には創立150周年記念事業の一環として、「植樹式とタイムカプセル収納式」を予定しています。今学期も429名全員の「命」を最優先に考え、「学校が楽しい」と言えるように、そして、保護者、地域の皆様にとって「子供を安心して任せられる学校」であるために、全職員が一丸となって教育活動を展開してまいります。どうぞご理解、ご協力をお願いいたします。学校教育に対して不安や疑問、子育ての悩み等がありましたらいつでもお気軽にお越しください。校長室のドアはいつでも開いています。

### 心よりお見舞い申し上げます

令和6年1月1日、石川県能登地方で発生した大地震により、犠牲になられた方々にご冥福を申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

本校の保護者、地域の方の中にはご親戚やご友人等が被災されている方もいることでしょう。多くの方々が不安や心配な気持ちで過ごされていることと存じますが、さらなる被害が広がらないことを願ってやみません。災害は時と場を選ばず、突然発生するということを改めて痛感しております。

大久保小学校職員一同